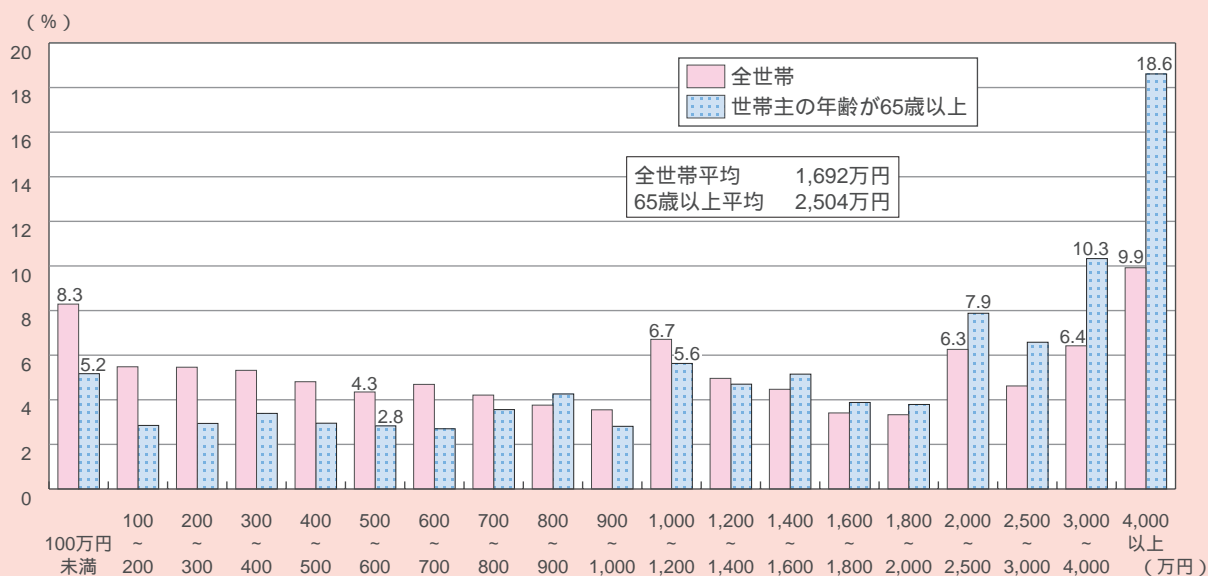


図1-2-18 世帯主の年齢が65歳以上の世帯の貯蓄の分布

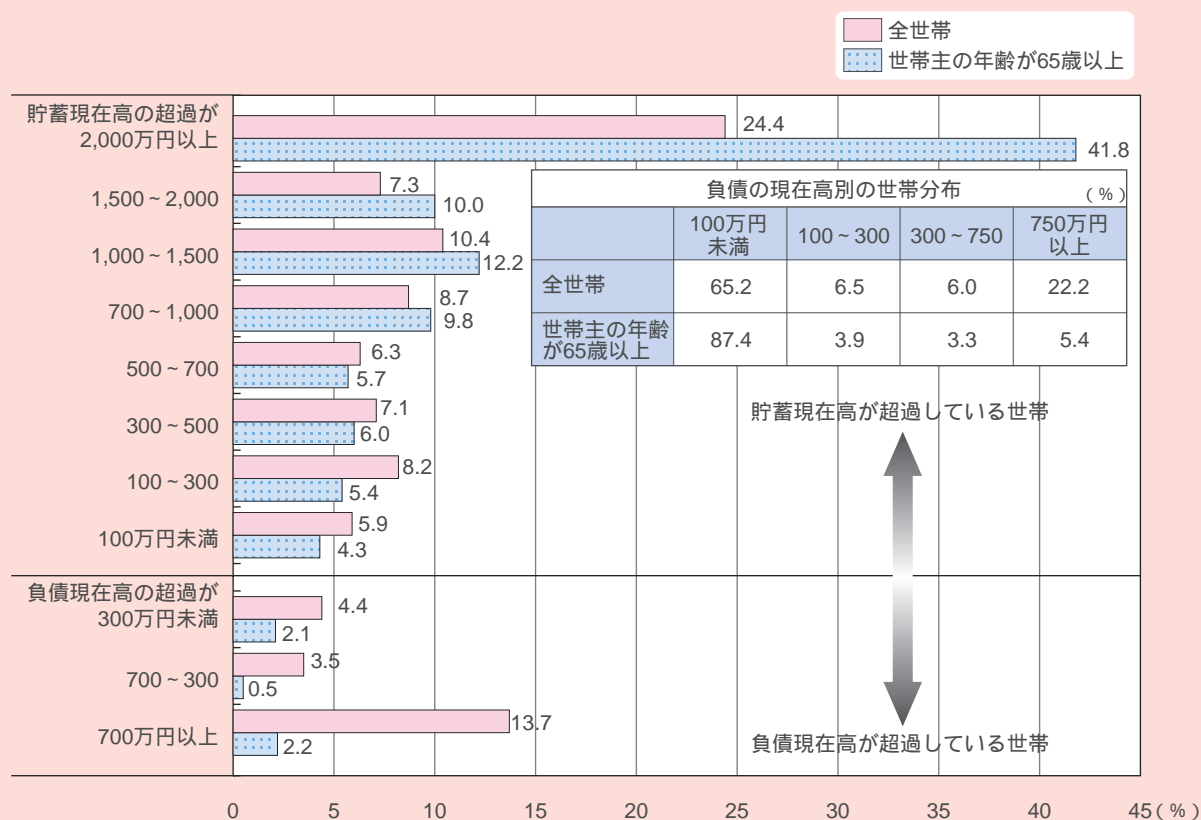


資料：総務省「家計調査」(平成16年)

(注1) 単身世帯は対象外

(注2) 郵便局・銀行・その他の金融機関への預貯金、生命保険の掛金、株式・債券・投資信託・金銭信託などの有価証券と社内預金などの金融機関外への貯蓄の合計

図1-2-19 貯蓄・負債現在高の差額階級別世帯分布



資料：総務省「家計調査」(平成16年)

(注1) 単身世帯は対象外

(注2) 貯蓄現在高とは、郵便局・銀行・その他の金融機関への預貯金、生命保険の掛金、株式・債券・投資信託・金銭信託などの有価証券と社内預金などの金融機関外への貯蓄の合計現在高をいう。

(注3) 負債現在高とは、郵便局・銀行・生命保険会社、住宅金融公庫などの金融機関からの借入金のほか、勤め先の会社・共済組合、親戚・知人からなどの金融機関外からの借入金の合計現在高をいう。

う」の割合は65～69歳で59.1%と最も高いが、
さらに年齢階級が上がるにつれてその割合は減

少する（図1-2-20）

高齢者の住宅・宅地資産についてみると、平

図1-2-20 高齢者の老後の備え

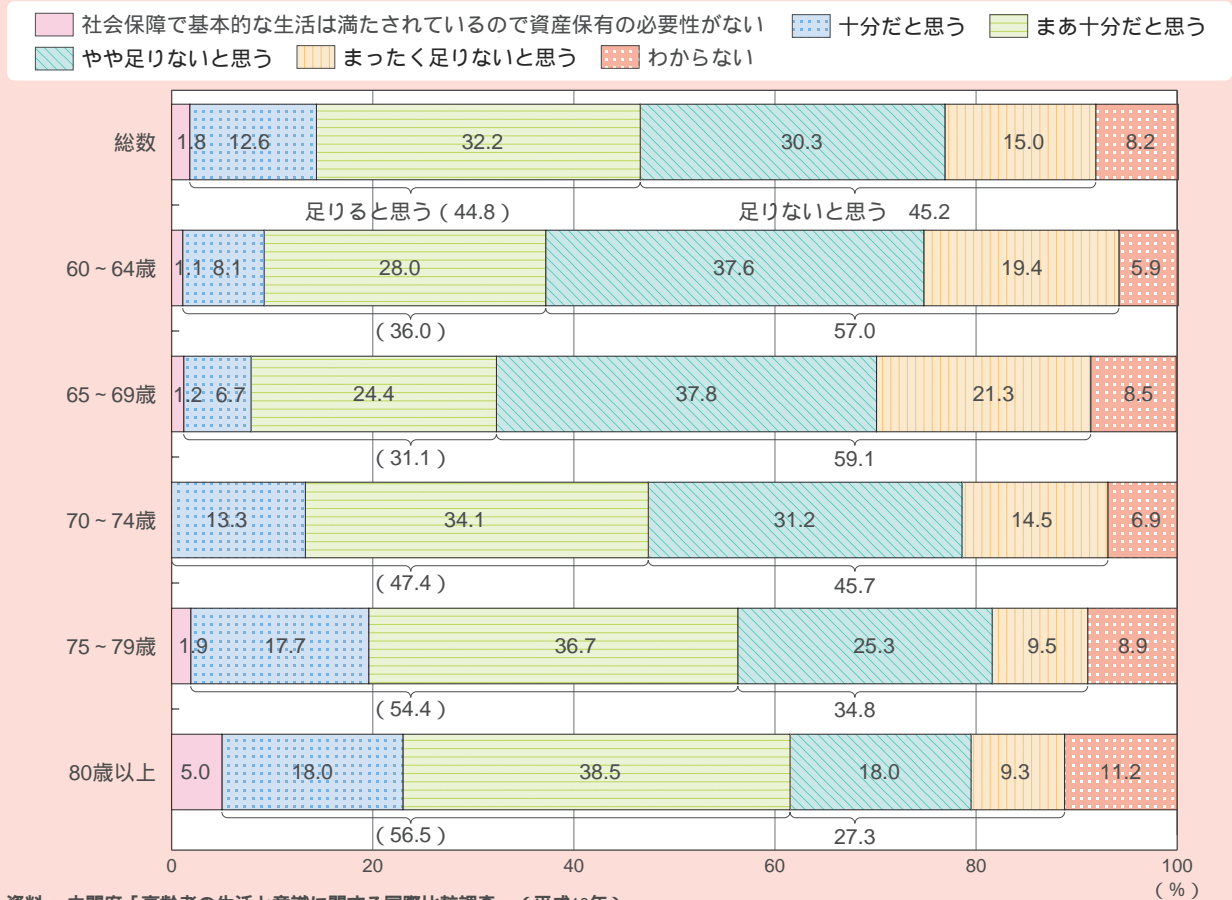
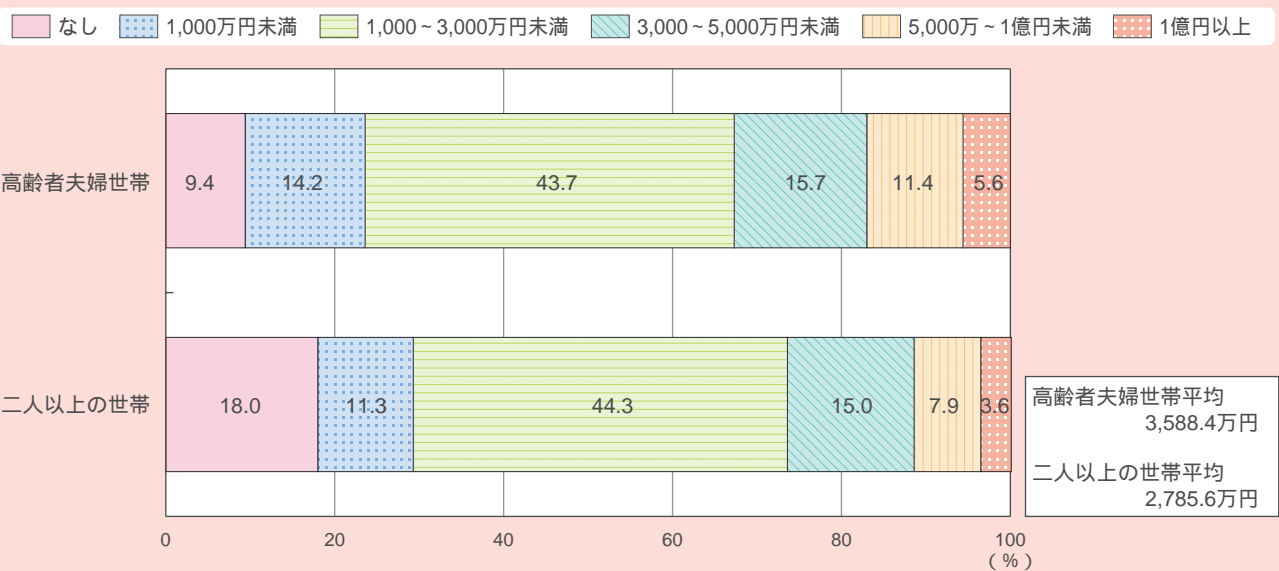


図1-2-21 高齢者夫婦世帯等の住宅・宅地資産の分布



成16(2004)年において、高齢者夫婦世帯(夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの世帯)の平均住宅・宅地資産額は、3,588.4万円となっており、二人以上の世帯(2,785.6万円)の約1.3倍となっている。住宅・宅地資産額の世帯分布を見ると、資産なしも含めて1,000万円未満の世帯が23.6%を占める一方、17.0%の世帯が5,000万円以上となっている(図1-2-21)。

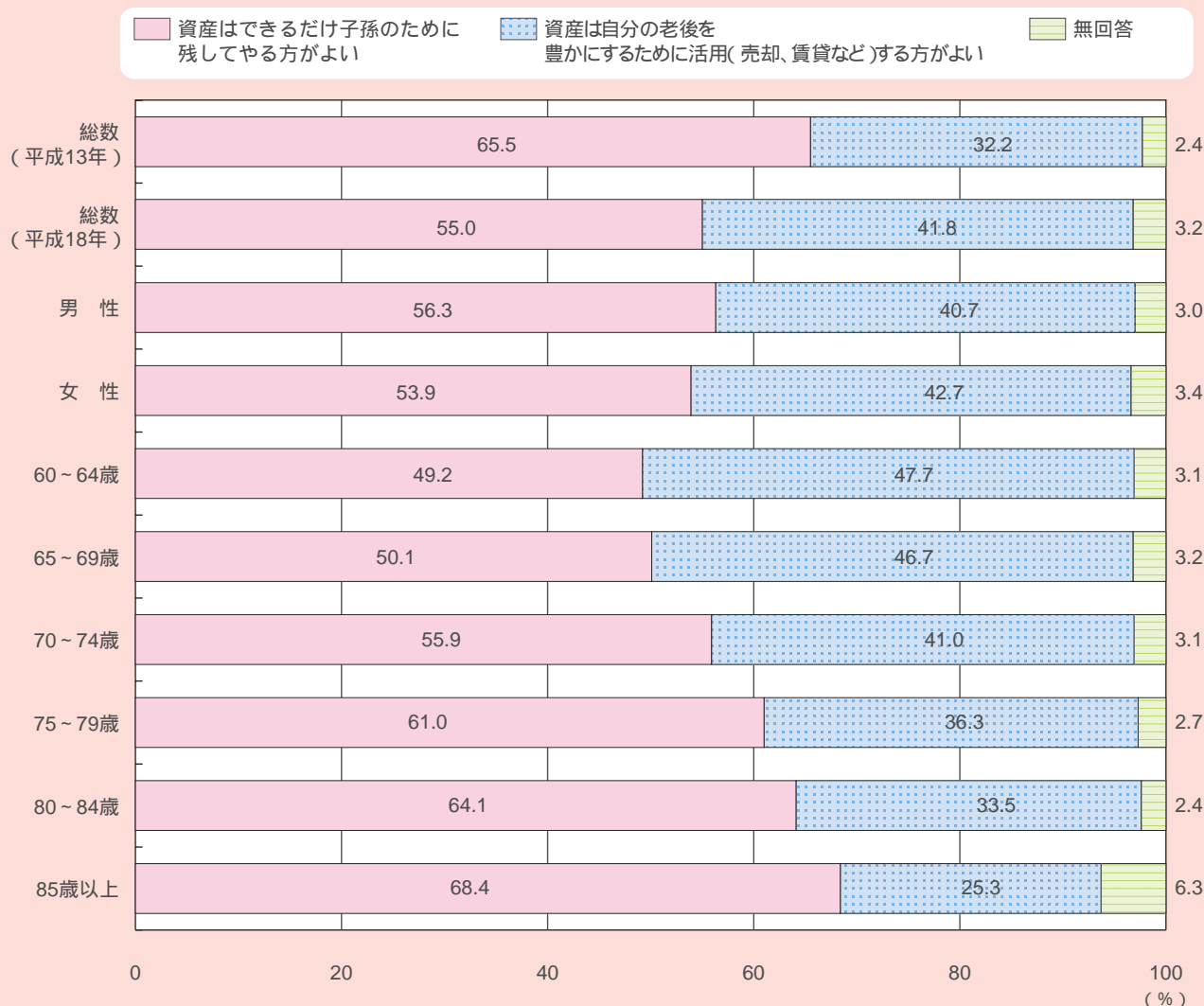
このように、高齢者の世帯においては、平均的には一般の世帯に比べ貯蓄や資産が多く、負債が少ない状況にある。

一方、資産を子や孫に譲ることについて、60

歳以上の高齢者の意識をみると、「資産はできるだけ子孫のために残してやる方がよい」とした者が55.0%、「資産は自分の老後を豊かにするために活用(売却、賃貸など)する方がよい」とした者が41.8%と、前者の割合が高くなっているが、時系列で見ると後者の割合がこの5年間で10ポイント近く増えている。また、年齢階級別にみると、後者の割合は年齢が低いほど高くなっている(図1-2-22)。

老後の世話と不動産の譲与に対する考え方についてみると、「老後の世話をしてくれたかどうかに関係なく譲る」が48.3%と半数近くに達し、

図1-2-22 資産に関する考え方



資料：内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査(平成18年)」
 (注)調査対象は、全国60歳以上の男女

「老後の世話をしてくれたかどうかによって差をつけて譲る」25.6%、「どちらともいえない」16.2%となっている（図1-2-23）

